

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v.2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)㈱筑豊製作所北九州支店	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.5 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.3	
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.2
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.2
・可動間仕切りの設置		・耐用年数の長い内装材の使用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.5	
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
・ライフサイクルCO2排出率 74%		・自動水栓の設置	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
対策なし		・断熱材は全てノンフロン品を使用	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	0.73
対策なし		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅: BEI値、住宅: -	0.63
		外構緑化指数	9.7 %
		建物緑化指数	0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社豊製作所北九州支店	階数	地上2F
建設地	北九州市戸畑区大字中原字先の浜	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年3月1日
敷地面積	21,330 m ²	作成者	宮崎 徹
建築面積	4,781 m ²	確認日	2019年3月7日
延床面積	6,333 m ²	確認者	井手 嘉範



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 74% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 74%

④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他
遮音性の高い建具により騒音を防いでいる。F☆☆☆☆の建材を使用し、建物内を禁煙とし空気質環境に配慮されている。一人当たりの執務スペースを十分に確保し、リフレッシュスペースを設け快適なオフィス造りを目指している。空間の自由さを確保し将来の設計変更等にも対応可能な設計となっている。建物外皮の抑制、高効率設備によりエネルギー消費を低減させている。リサイクル材、ノンフロン品を使用し環境への負荷抑制に努めている。	配慮事項なし
Q1 室内環境 ・遮音性の高い建具を設置している。 ・大きな窓により昼光利用を行っている。 ・科学汚染物質の発生しない建材を採用している ・建物内を禁煙としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 配慮事項なし
LR1 エネルギー ・建物外皮の熱負荷を抑制している。 ・高効率設備を設置し消費エネルギーを削減している。	LR3 敷地外環境 ・光害対策を行っている。
Q2 サービス性能 ・一人当たり6.75m ² 程の執務スペースを確保している。 ・リフレッシュスペースを設けている。 ・耐用年数の内装仕上げを使用している。 ・階高にゆとりがある。	
LR2 資源・マテリアル ・リサイクル材を使用している。 ・フロンの発生しない断熱材を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)制鉄量産所北九州支店 制鉄セル販売九州北九州支店 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質					
Q1 室内環境			0.33	-	-		3.1
1 音環境		3.4	0.15	-	-		3.4
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能	外部に面するアルミサッシの遮音性能をT-2とした	5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-		
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-		2.8
2.1 室温制御		2.6	0.50	-	-		
1 室温		2.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		2.7	0.25	-	-		2.7
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-		
1 昼光率	昼光率 3.00%(1Fゼクセル事務所)	5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		1.0	1.00	-	-		
3.3 照度		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境		3.9	0.25	-	-		3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00	-	-		
4.2 換気		3.0	0.30	-	-		
1 換気量		3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-		
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.0
1 機能性		2.9	0.40	-	-		2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観	一人当たり執務スペース 6.75㎡	4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース	休憩室、自販機あり	5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	石膏ボード 30年程度	5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種 B以上を使用 Eは不使用	5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備	非常用電源、無停電装置、浸水の危険性なし	4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務所 1階=3.75m 2階=3.40m	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁比率0.0959	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.73	5.0	0.06	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.63	4.7	0.59	-	-	4.7
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:サンゲツOT、床・壁:エスリューム、消臭トワレ	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		可動間仕切り	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材は全てノンフロン品	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2 74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半数を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	